

「この野菜はなあに？」クイズで野菜が大好きに！

取組主体： 安城市立さくの幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

連携団体： 給食センター

実施時期： 平成 24 年 11 月 26 日 (月)

実施場所： 安城市立さくの幼稚園

対象及び参加人数： 年長組

[取組の内容] キーワード：幼稚園児、給食、地産地消、野菜、クイズ

安城市立さくの幼稚園では、給食センターの職員(栄養士)に来ていただき、安城市地産の野菜を、「この野菜はなあに？」クイズを実施しながら、野菜に関心をもたせるようにしています。

クイズ終了後、クイズに出てきた野菜が今日の給食の中に隠れていることを知らせ、楽しい雰囲気の中で給食に興味をもって残さず食べられるようにしています。



[活動の成果、今後の課題]

子どもたちは、クイズを楽しみながら地元産の野菜に関心をもち、給食も残さず食べることができました。また、栄養士さんから、地産の野菜を作っている人のことや、野菜の栄養などの話を聞き、食べているときも野菜についての会話が聞かれました。

今後も栄養士さんや生産者の方たちから、野菜についての話を聞く機会を設けていきたいと思えます。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|----------------------|---------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 | 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 1 食生活における「もったいない」意識の浸透と実践 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

「残さずたべよう もったいない！」

取組主体: 岡崎市立矢作幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

連携団体: 岡崎市環境部

実施時期: 平成 24 年 11 月 2 日 (金)

実施場所: 岡崎市立矢作幼稚園

対象及び参加人数: 5 歳児 52 名

[取組の内容] キーワード : 幼稚園児、市役所環境部、食べ残し、おかざきエコプロジェクト、環境問題

岡崎市立矢作幼稚園では、市役所環境部の協力を得て、食育の一環とし「食べ残し」と環境との関係について学びました。この内容は、地域の自然を大切にしたい気持ちや環境を守るために行動する力を育むことを目的とした「おかざきエコプロジェクト」のプログラムの一つです。「もったいない・・・食べ残しはどこに行くの?」といった子どもたちの疑問について、野菜運びゲームを通して、捨てられてしまった野菜がごみ収集車でごみ焼却所に運ばれ、燃やすと煙が出て地球の温暖化につながることを分かりやすく、環境部のスタッフから教わりました。わかりやすい図を使っての話や環境戦隊「エコマンダー」の登場で、子どもたちは「わあ、エコマンダーだ!」と歓声をあげ、環境問題について知識を得たり、考えたりする良い機会となりました。



[活動の成果、今後の課題]

その日の給食の時間では、「残したら、もったいない」「そうだよね」「私、牛乳が苦手、でも頑張って半分飲んでみる」など、と子どもたちから声が出ました。また、食べ残しが出ないようにするためには、どうしたらよいかを子どもたちが考える場を設けたところ、「食べきれぬ量にする」「よくばらない」「きれいに食べる」との声が出ました。

「食べ残しすると、シロクマさんが病気になる」「地球が苦しくなる」「空気が汚くなる」などと、子どもたちから話をしてくれましたなど、保護者からの声も聞かれました。

体調、アレルギー体質、食の細い子、偏食など配慮が必要な子どももいるので、職員が配慮すべき点はきめ細やかにを行うように、再度職員で確認し合う機会にもなりました。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|----------------------|---------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 | 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 1 食生活における「もったいない」意識の浸透と実践 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

レストランでお食事

取組主体: 常滑市立常滑幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

実施時期: 平成 25 年 1 月 22 日 (火)

実施場所: 常滑市立常滑幼稚園

対象及び参加人数: 常滑幼稚園 5 歳児

[取組の内容] キーワード : 幼稚園児、レストラン体験、食べ残し、給食、クイズ

常滑市立幼稚園では、常滑市学校給食共同調理場を利用した給食を実施しています。園内の調理場での調理ではないため、どんな食材が使われているかを知ること、食べ物への関心をもち少しでも食べ残しがないように働きかけています。

本園では、隔年で『レストランでお食事』と『おなかのすく日』という行事を設け、食べ物を大切にする機会としています。今年度は、遊戯室をレストランの雰囲気にし、メニューを作り献立の内容を知らせ、ウエイトレスになった教師が丁寧に説明をしました。いつもとは違う気分で給食を食べ、給食の素材にも興味をもちながら、食べ残しをせずおいしくいただく経験をしました。

普段の給食では、給食献立表を通して、赤・黄・緑の食品の役割や食材を知らせています。

また、栄養士の幼稚園訪問では、当日の給食に使われている実際の食材を子どもたちに見せながらのクイズがあり、楽しみながら給食の献立への興味が深まる良い機会となりました。



[活動の成果、今後の課題]

少しきどった表情で、「たまねぎおいしいね」「これブロッコリーだよ」「キャベツが甘いよ」などと言葉を交わしながら、どの子も残さずきれいに食べていました。

今後も、学校給食共同調理場と連携して、食材を身近に感じ味わって大切にする機会を設けていきたいと思っています。次年度は『おなかのすく日』で、食の大切さを伝えていきたいと思っています。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|--|---------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 |  食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 1 食生活における「もったいない」意識の浸透と実践 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

県産品に込めた生産者の思いを消費者に伝える取組を支援しました

取組主体: 愛知県

連携団体: 大学教授、消費生活アドバイザー、
事業コーディネーター等

実施時期: 平成 24 年 11 月他

実施場所: 愛西市 他

対象及び参加人数: 農業者や漁業者の法人等 8 主体

[取組の内容] キーワード：農林水産物、PR、あいちブランド創出委員会、コンサルティング活動、支援

県では、品質や活動に特徴のある本県の農林水産物や農林漁業者の取組を掘り起こし、その魅力を有識者により磨きあげ、併せて消費者に PR することにより、本県の農林水産業や農林水産物等の全体的なイメージアップを図っています。

平成 24 年度は、大学教授、消費生活アドバイザー、民間の事業コーディネーターからなる「あいちブランド創出委員会」を現地において 7 回開催し、愛西市の「ミニトマトを使った加工品」や西尾市の「牧場主自らが生産する乳製品」の販売など 8 つの取組に対して、それぞれの課題に応じたコンサルティング活動を実施しました。

このうち 5 つの取組については、県産農林水産物やその加工食品の展示会である「あいちの農林水産フェア」において、消費者ニーズの把握や商品の PR を行うブースを出店した他、生産者や流通関係者など幅広い事業者が集い、情報交換や商談を行う「農商工連携ビジネスフェア」への参加を支援しました。



[活動の成果、今後の課題]

これらの支援を契機として、例えばミニトマトをフルーツ感覚でラッピングした新商品のコンビニ販売に向けた検討やチーズ作り体験キットの商品化に向けて地域の学校との連携が始まるなど、新たな取組が進んでいます。

県では、引き続き地域の特徴ある取組に対して、「あいちブランド創出委員会」の開催やイベントへの出展の誘導などをしていきます。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|--|------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 |  食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

愛知産ジビエの消費拡大に向けて

取組主体: 愛知県

連携団体: 特定非営利活動法人
ボランタリーネイバーズ

実施時期: 平成 24 年 12 月 8 日 (土)
平成 24 年 12 月 9 日 (日) 他 12 回

実施場所: 豊田市
(道の駅「どんぐりの里いなぶ」)

対象及び参加人数: 一般 3,900 人

[取組の内容] キーワード : 愛知産ジビエ、PR、イベント

農家の皆さんが一生懸命作った野菜などをイノシシやシカが食べてしまうということが増えてきました。対策として柵で田や畑を囲っていますが、被害を防ぎきれしていないのが現状です。

そのため、やむを得ずイノシシやシカを捕獲していますが、捕獲したイノシシやシカの肉は地域資源“愛知産ジビエ”として流通させるため、消費拡大の取組を進めています。

<http://www.pref.aichi.jp/0000049802.html>

愛知産ジビエの定義

県内で捕獲され、県内の食品営業許可（食肉処理業）を受けた処理場で処理されたイノシシとニホンジカの肉のこと。

ジビエ(フランス語:gibier)

狩猟によって、食材として捕獲された野生の鳥獣、もしくはその肉。



[活動の成果、今後の課題]

9月8日～9日に開催されました「ふるさと全国県人会まつり2012」会場内で、愛知産ジビエを使ったソーセージを1,000名の来場者に無料試食していただきました。

12月8日～9日に開催しました愛知産ジビエと本県農林水産物などを材料とするオリジナルのジビエ料理を販売する「ジビエ・グルメ・グランプリ」には3,900名の来場者があり、アンケート結果では、90%の人から「おいしかった」との評価を得ました。また、継続して開催して欲しいとの声も寄せられています。

各種イベントでのアンケートでは「食べる機会がない」との回答が多く寄せられていますので、愛知産ジビエを使った料理を食べることができる飲食店を増やすとともに、消費拡大イベントの開催により消費者の皆さんに愛知産ジビエを知っていただく機会を増やす取組を進めていきます。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|--|------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 |  食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

愛知県茶会の開催

取組主体: 愛知県

連携団体: 愛知県茶業連合会

実施時期: 平成 24 年 10 月 8 日(月)

実施場所: 愛知県公館（名古屋市中区）

対象及び参加人数: 市町村長関係者、愛知県議会議員関係者、関係団体、西尾市立中学校の茶道部生徒等の合計 246 名

[取組の内容] キーワード：お茶、お茶の文化、茶会、PR

平成 23 年 4 月に施行された「お茶の振興に関する法律」に基づき、お茶の消費の拡大、お茶を活用した食育の推進及びお茶の文化の振興を図るため、県が主催する「愛知県茶会」を初めて開催し、県内の茶産地紹介等、茶に関するPRを行いました。

茶会は愛知県公館の庭園において、午前中に 3 席、午後から 3 席の計 6 席（1 席 40 分間）を野点により行い、大村知事が席主となり、表千家同門会愛知県支部野口裕記副支部長の協力をいただいて開催しました。

また、茶に関するPRについては、愛知県公館の 1 階ラウンジにおいて、県内の茶産地の紹介や生産されているせん茶、かぶせ茶、てん茶（抹茶の原料）、紅茶等の茶葉、商品やパンフレットを展示し、「あいちの茶」をPRしました。また、県内小中学校における茶に関する取組、茶を活用した食育ボランティアの取組、茶の新たな利用方法について、パネル、写真、参考資料の展示や料理レシピの配布等で紹介しました。



[活動の成果、今後の課題]

参加者には、緑深い公館の庭園でお茶の伝統と文化に深く親しんでいただき、お茶の文化の浸透、振興の気運の醸成を図り、「あいちの茶」を知っていただく良い機会となりました。茶会の状況は、多くの新聞やテレビで報道され、県産茶の知名度向上、本県茶産業の振興につながりました。

また、「あいちの紅茶」コーナーの展示がテレビ局取材陣の目に留まり、「あいちの紅茶」の生産状況についての放映がなされるなど、良いPRになりました。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|--|------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 |  食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

漬物創作料理の試食を行いました！

取組主体： 愛知県

連携団体： (公社)愛知県漬物協会

実施時期： 平成 24 年 11 月 15 日 (木)

実施場所： 丸栄 (名古屋市中区)

対象及び参加人数： 一般来場者：試食 300 名、アンケート 550 名

[取組の内容] キーワード： あいちの農林水産フェア、漬物振興、漬物創作料理、レシピ

あいちの農林水産フェアにおいて、(公社)愛知県漬物協会と共催で、漬物振興のため、漬物創作料理の試食やパネル展示、アンケート等を実施しました。今年で2回目ですが、初日ということもあり、6種類、50食ずつ用意した試食品がすぐになくなるなど、去年に引き続き大盛況でした。

ところで、漬物というと塩分がとかく敬遠されがちですが、既に低塩分化が進んでおり、消費者が考えているよりずっと塩分が少なくなっています。また、味が野菜などに染み込んでいることから、調味料いらずの食材として活用できるため、塩分を気にせず、調理時間の短縮につながり、さらに野菜が摂取できるという一石三鳥の料理レシピが多く、用意したレシピのパンフレットもなくなってしまいました。

なお、漬物創作料理のレシピは(公社)愛知県漬物協会のHPで公開しています。



写真：左から守口漬ちくわピザ、豆乳キムチープ、守口漬入チョコブラウニー

[活動の成果、今後の課題]

多くの来場者に「おいしかった」と大変好評で、漬物を使った料理のおいしさや楽しみ方、さらに料理への活用方法などを広く知っていただくことができました。しかし、来場者が多かったため、対応に追われ、あまり消費者との交流を図ることができませんでした。今後は、提供する側と消費者との交流が図れるよう配慮していきたいと考えています。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|--|------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 |  食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

守口大根（レプリカ）と記念撮影を行いました！

取組主体：（公社）愛知県漬物協会

連携団体：愛知県

実施時期：平成24年11月3日（土）

実施場所：愛知県庁（名古屋市中区）

対象及び参加人数：一般来場者

[取組の内容]

キーワード：県庁公開イベント、漬物振興、守口ダイコン、記念撮影、チャリティー販売

愛知県の県庁舎公開イベントにおいて、漬物振興のため、漬物のチャリティー販売会やパネル展示、アンケート等を実施しました。本年度が初めての参加でしたが、守口大根（レプリカ）と記念撮影できるコーナーは、親子連れに好評でした。親子連れの中には、愛知県の伝統野菜である守口大根や守口漬を知らない大人もいて、長さ1mと本物より少々小ぶりのレプリカにさえ驚いていました。また、来場者との漬物談義にも花が咲き、とても良い交流の場となりました。

なお、チャリティー販売の売上は、全額、日本赤十字社愛知県支部に東日本大震災の義援金として寄付されました。

愛知県の伝統野菜である守口大根は、世界一細長いとされる大根で、長いものは1.8mを超えることもあり、愛知県の扶桑町と岐阜市の一部、大阪府の守口市でわずかに生産されている珍しい大根です。ほぼ100%が高級奈良漬の守口漬になります。



[活動の成果、今後の課題]

多くの来場者に「おいしかった」と大変好評で、漬物を使った料理のおいしさや楽しみ方、さらに料理への活用方法などを広く知っていただくことができました。しかし、来場者が多かったため、対応に追われ、あまり消費者との交流を図ることができませんでした。今後は、提供する側と消費者との交流が図れるよう配慮していきたいと考えています。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|--|------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 |  食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

生産者によるあいち産いちじくの消費宣伝活動

取組主体: 愛知県果樹振興会、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県

連携団体: (社)愛知県農林会館ほか

実施時期: 平成24年9月7日(金)

実施場所: 名古屋市中区及び熱田区

対象及び参加人数: 消費者約1,000人

[取組の内容] キーワード：あいちのいちじくフェア、生産者、PR、試食、即売会

県内の農家が生産した自慢の「いちじく」のできばえを競う、第34回愛知県果実品質改善共進会に出品されたいちじくを用いて、生産者が自ら消費宣伝活動などを行う「あいちのいちじくフェア」を開催しました。

開催場所は、名古屋市中区にあるJAあいちビルと同熱田区のイオンモール熱田店の2か所で、生産者が、いちじくの試食会を通じて、栽培のこだわりや県産いちじくの良さなどを直接、消費者に伝えました。

イオンモール熱田店では、試食会と併せて、いちじくの即売会を行うとともに、(株)プチフレーズ(洋菓子店)の協力を得て、家庭で作ることができるいちじくのお菓子を展示し、その作り方を伝えました。

また、フェアの一環として、JAあいち経済連がイオンモール熱田店に來場した消費者を対象にアンケートを実施し、いちじくを食べる頻度やその目的、果実に求める品質条件などの把握に努めました。



写真1 試食用のいちじく



写真2 試食の様子
(JAあいちビル)



写真3 試食の様子
(イオンモール熱田店)

[活動の成果、今後の課題]

今回のフェアでは、高品質ないちじくを約1,000人の消費者に試食してもらうことができ、広く消費者にいちじくの美味しさを伝えることができました。

アンケートからは、「いちじくを普段から食べない」人が全体の約55%で、そのうち約半数は「いちじくを食べたことがない」ということや、若年層を中心に「いちじくを食べない・食べたことがない」人が多いことがわかりました。引き続き、試食を通じていちじくの美味しさを伝え、消費拡大につなげていきたいと考えています。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|----------------------|------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 | 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

生産者によるあいち産かんきつの消費宣伝活動

取組主体: 愛知県、愛知県果樹振興会

連携団体: (社)愛知県園芸振興基金協会

実施時期: 平成 24 年 12 月 1 日 (土)

実施場所: 金山駅 (名古屋市中区)

対象及び参加人数: 消費者

[取組の内容] キーワード : あいちのかんきつフェア、生産者、PR、あたらしいみかんのむき方

本県産のみかんの消費拡大を図るため、「あいちのかんきつフェア」を開催しました。

今回のフェアでは、金山駅連絡橋イベント広場で本県産のみかんをお値打ち価格で販売するとともに、生産者と消費者の思いを伝える取組として、フェアでみかんを購入していただいた方々から、本県産のみかんに対する意見・感想を募集し、みかん生産者の心に響く意見・感想をいただいた方に、本県産のみかんをプレゼントしたり、おいしいみかん探しゲームなどの取組を実施しました。

また、消費者に一層みかんに親しんでもらえるよう金山駅そばの名古屋都市センターで、みかんの皮を動物の形にむく「あたらしいみかんのむき方ワークショップ」を併せて実施しました。



写真1 みかん販売の様子



写真2 おいしいみかんを探す参加者



写真3 ワークショップ作品「ウサギ」

[活動の成果、今後の課題]

みかんの即売は、昼過ぎには売り切れ状態になるなど非常に好評でした。おいしいみかん探しゲームには消費者約 200 名が参加し、ゲームを通じて、おいしいみかんの見分け方を学ぶとともに、みかんに親しんでもらうことができました。

また、あいちのみかんに対する意見・感想を募集した結果、15 名の消費者から意見・感想が寄せられました。その中には「購入したみかんの一部に味が良くないのがあった」など厳しい意見もありましたが、生産者もそれを真摯に受け止め、今後の生産・出荷改善につなげようとする雰囲気が醸成されました。

引き続き、今回のような体験型のイベントを通じて、本県産みかんに親しむ機会を提供するとともに、意見・感想の募集など生産者と消費者の思いを伝える取組を通じて、より多くの消費者のみかんに対する関心を高めていきたいと考えています。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|----------------------|------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 | 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

あいちの魚ジャンボカルタ大会

取組主体: 愛知県

連携団体: 名古屋市中央卸売市場

実施時期: 平成 24 年 10 月 28 日 (日) 他

実施場所: 名古屋市他

対象及び参加人数: 小学生等

[取組の内容] キーワード : あいちの四季の魚、ジャンボカルタ、お魚カード

「あいちの四季の魚」の PR の一環として、小学生以下の子ども達を対象とした「あいちの魚ジャンボカルタ大会」を開催しました。

このイベントは、「あいちの四季の魚」を始めとする愛知県の水産物について、子ども達に興味をもってもらうことを目的に企画したもので、県内で水揚げされる代表的な水産物 53 種類について、A3 サイズのカードを作成し、ラミネートコーティングしてカルタに仕上げました。

きれいな絵が描いてあるカルタは子ども達の人気を集め、職員が魚の名前や特徴などを読み上げると、子ども達は真剣な表情で一心に探し回っていました。そして見事探し当てた子どもには、同じ絵柄の「お魚カード」を贈呈しました。

| 実施イベント | 場所 | 実施日 | 参加人数 |
|----------------|-------------------|----------------|------|
| 水産試験場公開デー | 愛知県水産試験場 (蒲安市) | 24 年 8 月 4 日 | 60 人 |
| ふれあい市場まつり 2012 | 名古屋市中央卸売市場 (名古屋市) | 24 年 10 月 28 日 | 90 人 |



[活動の成果、今後の課題]

ウナギやタコなどおなじみの水産物を除けば、ほとんど名前がわからないという子どもが大半でした。

「魚離れ」が言われて久しいですが、水産物をもっと食べてもらうためには、まずは水産物を知ってもらうことが大切です。今後とも、愛知の水産物に親しみ、知ってもらうための取組みを続けていきたいと考えています。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|----------------------|------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 | 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

水産試験場公開デー

| | |
|----------------------------------|--|
| 取組主体: 愛知県 | 連携団体: 愛知県漁業士協議会、愛知県漁連 三谷水産高校 |
| 実施時期: 平成 24 年 8 月 4 日 (土) | 実施場所: 蒲郡市 |
| 対象及び参加人数: 一般県民 413 名 | |

[取組の内容] キーワード：水産業、水産試験場、一般公開デー

水産試験場では、県民の皆様には試験研究成果の紹介や水産業への関心を高めていただくことを目的に、毎年夏休みに蒲郡市の本場で一般公開デーを開催しています。平成 24 年度は 8 月 4 日 (土) に開催しました。

展示内容は、試験研究成果のパネル紹介、水生生物の展示、国内でも有数の規模を誇る干潟再現水槽の見学などの学習コーナーだけでなく、金魚すくい、タッチプール、チリメンモンスター探しなどの体験コーナー、干潟で多く獲れる貝の試食や、漁業士の皆さん提供の海の幸の試食などグルメコーナーなど、様々な楽しめる企画を用意しました。

来場者数は 413 人を数え、小学生の親子連れの方が多くおられました。夏休みの宿題に活用しようと、職員に熱心に質問していた子ども達の姿もありました。



[活動の成果、今後の課題]

水産試験場の強みを活かし、ウナギつかみやマテガイとり体験など、実際に生きた水産物に触れる企画に力を入れました。来場された方のアンケート結果でも、「体験型の企画がたくさんあって良かった」との声が多く聞かれました。

干潟モンスターを探すコーナーでは、海草の中から小さい生き物を熱心に探す子ども達の姿がありました。見るだけでなく、触って、そして味わう体験を通じて、愛知県の海の豊かな生産力を実感していただけたかと思えます。

今後も地元の水産物を使った企画を通して、一般県民の方々が水産業に対する関心を高めていただくきっかけを作っていきたいと考えています。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|----------------------|------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 | 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

「あいちの四季の魚」啓発普及活動

取組主体： 愛知県

実施時期： 平成 24 年 10 月から

実施場所： 県内全域

対象及び参加人数： 一般県民

[取組の内容] キーワード： あいちの四季の魚、PR、普及啓発資料

県では、伊勢湾・三河湾の豊かな栄養に育まれた、愛知の美味しい水産物を県民の皆様にご存知いただき、地産地消を進めるため、代表的な水産物 8 種類を「あいちの四季の魚」として選定し、平成 24 年 2 月 27 日に公表しました。

平成 24 年度は、この「あいちの四季の魚」を PR するために、パンフレット等の啓発普及資料を作成し、県内各地で PR 活動を行いました。

あいちの四季の魚

- | | |
|-------------|----------|
| 春の魚 (3~5月) | アサリ、コウナゴ |
| 夏の魚 (6~8月) | ウナギ、シラス |
| 秋の魚 (9~11月) | ガザミ、スズキ |
| 冬の魚 (12~2月) | トラフグ、ノリ |



[活動の成果、今後の課題]

- ・パンフレット 10,000 部を作成し、県内各機関に送付

主な配布先：県内全小学校、流通機関（いいともあいち推進店）、全市町村、水産関係団体 等

- ・県民生活プラザや名古屋港水族館等に、配布用パンフレットを設置
- ・パンフレット、クリアファイル、チラシ等を各種 PR イベントで配布

まだまだ知名度が低い水産物も多いため、今後は web 等のメディアも活用して、更なる認知度向上を図っていきたいと考えています。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|----------------------|------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 | 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

漁業者による魚食普及活動

取組主体: 愛知県漁業士連絡協議会 他

連携団体: 愛知県

実施時期: 平成 24 年 9 月 15 日 (土) 他

実施場所: 名古屋市 他

対象及び参加人数: 一般県民 160 名

[取組の内容] キーワード : 漁業士、大学、県民、調理実習、魚食普及

「漁業士」は、模範的な漁業経営を行い地域の指導的な役割を果たす漁業者として、県から認定された方々です。この漁業士関係の団体が、料理教室を中心とした魚食普及活動を長年行っています。

平成 24 年度は、県内 4 箇所で開催しました。

| 実施日 | 主催 | 場所 | 参加人数 |
|----------|-------------|-----------------|------|
| 7 月 7 日 | 愛知県漁業士連絡協議会 | 日本福祉大学 (美浜町) | 47 名 |
| 8 月 28 日 | 愛知県漁業士連絡協議会 | 名古屋女子大学 (名古屋市) | 37 名 |
| 9 月 15 日 | 愛知県漁業士連絡協議会 | 中日文化センター (名古屋市) | 60 名 |
| 10 月 5 日 | 知多地区漁業士協議会 | 大和幼稚園 (常滑市) | 16 名 |



[活動の成果、今後の課題]

栄養に関する科目を履修している学生や幼稚園児の保護者など、幅広い世代の県民を対象に、魚のさばき方などを講習しました。漁業者自らによる講習に参加者の皆さんも熱心に聞き入り、獲れたての魚のおいしさに驚いておられました。

近年、魚離れが進んでいると言われますが、その理由として「調理の仕方を知らない」「面倒」などが多く挙げられます。少しでも多くの方に本当の魚のおいしさを知っていただくため、今後とも地道な取り組みの継続が必要です。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|--|------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 |  食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

「あいちの農林水産フェア」で地産地消・食育をPR

取組主体: あいちの農林水産フェア
実行委員会

実施時期: 平成 24 年 11 月 15 日 (木) ~
20 日 (火)

実施場所: 丸栄 8 階 大催事場

対象及び参加人数: 一般県民 入場者数 : 47,758 人

[取組の内容] キーワード : あいちの農林水産フェア、地産地消、PR

多くの県民が農林水産業に親しみ、県産農林水産物を進んで消費・利用していただくことを目的に、新鮮で、安全・安心な農林水産物や、県産食材を活用した加工食品を広く紹介する「あいちの農林水産フェア」を開催しました。

フェアには 55 の企業・団体が出展し、味にこだわった高糖度トマトや旬のれんこんなどの農産物を始め、24 年度のふるさと食品コンテストで最優秀に選ばれた加工食品など、県産農林水産物及とその加工品が数多く出品されました。イートインコーナーでは、名古屋で揃うのは初めての佐久島の大アサリ井・日間賀島のタコ飯・篠島のしらす丼といった「離島の 3 丼」や、地域おこしで頑張っている「瀬戸焼そば」などのご当地グルメも販売され、連日行列ができるほどの賑わいでした。

県の施策を紹介するための主催者企画では、クイズラリーに 1,200 名の参加があり、効果的に県民の方々へ、農林水産行政を伝えることができました。また、バケツ稲と粳すり、のりの等級あて、バター作り、松ぼっくりの工作などの体験企画や、野菜きしめん、愛とん、エコ畜産物の試食など、日替わりのイベントメニューを充実させたことから、いずれの企画も大変好評でした。



会場内の様子



粳すり体験の実施

[活動の成果、今後の課題]

この取組は、地産地消や食育を広く紹介する良い機会となっています。来場者を対象としたアンケート結果でも、「お気に入りの一品を発見できた。」「新鮮な愛知の農林水産物を購入できた。」「生産者と直接対話できた。」などの回答が寄せられ、来場者の多くが継続して開催することを望んでいることから、県民ニーズの高いイベントとして定着しています。今後もイベント等を通じて、地産地消、食育の普及に努めていきます。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|--|------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 |  食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

愛知県知事の名刺を使った農林水産物のPR 牛乳編

取組主体: 愛知県酪農農業協同組合酪農教育ファーム推進委員会

連携団体: 愛知県

実施時期: 平成 24 年 10 月 31 日 (水)

実施場所: 知事公館 (名古屋市)

対象及び参加人数: 愛知県知事、関係者等

[取組の内容] キーワード : 牛乳、乳製品、愛知県知事、PR

愛知県知事公館において、愛知県知事の名刺を使った農林水産物のPRという企画がありました。酪農教育ファーム活動の理解及び支援をお願いするとともに、知事及び関係者に牛乳鍋を試食していただき、大村知事写真入りレシピを作成しました。最後に愛知県産牛乳と委員長の伊藤立氏のお店(スイーツ&ジェラテリア「Baroque (バロック)」<http://sg-baroque.com/>)のジェラードを贈呈しました。

詳しくはネット 平成 24 年度楽酪隊 で検索。

http://www.maff.go.jp/tokai/shohi/seikatsu/edu_farm/H24/rakurakutai-h24rakurakutai_tushin.html



[活動の成果、今後の課題]

牛乳の地産地消を推進するにあたり、季節に合わせた新メニューの提案を県とともにPRする事ができました。コラボする事でより多くの人々に知っていただけたかと思えます。

次はこのレシピを元に、どれくらいの方が実際作って食べてみたか?そしてその感想や提案をしていただけるようにして行きたいと思えます。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|--|------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 |  食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

親子で作る米粉ピザ教室

取組主体: 尾張旭市

連携団体: 尾張旭市アグリ生活研究

実施時期: 平成 24 年 8 月 27 日 (月)

実施場所: 尾張旭市

対象及び参加人数: 市内の小学生及び保護者 16 組

[取組の内容] キーワード : 給食センター、農政講座、親子、米粉ピザ

8月27日(月)学校給食センターで農政講座「親子で作る米粉ピザ～夏野菜をたっぷり～」を行いました。

小学生と保護者の親子 16 組が参加し、尾張旭市産の米粉と野菜を使ったピザと豆腐入りヨーグルトムースを作りました。

子ども達からは「生地をこねるのがおもしろい」といった声が聞かれ、できあがったピザは「もちもちしていておいしい」と好評でした。



[活動の成果、今後の課題]

子供たちに調理の楽しさ、大切さを知ってもらうことができました。また市内産の食材を使うことで地産地消の大切さを伝えることもできました。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|--|------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 |  食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

豊明をおいしく食べよう

取組主体: 豊明市保健センター

連携団体: 豊明食生活改善推進員グループ

実施時期: 平成 24 年 12 月 19 日 (水)

実施場所: 豊明市保健センター

対象及び参加人数: 市内の親子 37 組 (77 人)

[取組の内容] キーワード : 食育紙芝居、地元食材、おにぎり、試食

本事業は市制 40 周年記念事業で、食育推進を目的に実施しました。教室の内容は、食育の紙芝居と豊明でとれる食材の紹介、豊明の食材を使ったおにぎり 2 種と芋きんとんの試食を行いました。

紙芝居は、「いただきます、ごちそうさま」の言葉には、生産者や食材に対する感謝がこめられているという内容のもので、保護者向けにお話をしました。



[活動の成果、今後の課題]

教室後には、参加者から「家ではごはんを食べない子だけれど今日のおにぎりは食べた」、「市でとれた食材を使って家で作ってみたい」などの意見が聞かれました。

今回は食に関心の高い参加者が多かったのですが、今後はあまり食に関心のない人にも幅広く参加してもらえよう工夫していく必要があると思います。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|--|------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 |  食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

小学生料理教室

取組主体： 長久手市

実施時期： 平成 24 年 毎月第 3 土曜日

実施場所： 長久手市

対象及び参加人数： 市内在住の小学生、各回 20 人

[取組の内容] キーワード：小学生、米粉、調理実習、試食

平成 24 年度は、地元のお米で作った米粉を使った料理を多く盛り込み、市内在住の小学生を対象に簡単な調理実習と試食を行いました。

・実 績

| | | |
|------|----------------|-------|
| 4 月 | 米粉バナナマフィン | 16 人 |
| 6 月 | ジャガイモと米粉のニョッキ | 7 人 |
| 7 月 | フレンチトースト | 16 人 |
| 9 月 | ホットドック | 18 人 |
| 10 月 | どんどん焼き | 12 人 |
| 11 月 | 鬼まんじゅう | 20 人 |
| 1 月 | チョコパイとマシュマロチョコ | 12 人 |
| 2 月 | ピザ | 13 人 |
| 合 計 | | 114 人 |



[活動の成果、今後の課題]

4 月当初は包丁の使い方や、材料の混ぜ方も慣れない手つきでしたが、何度も参加するうちに調理道具の使い方にも少しずつ慣れてきた子も見受けられました。

この経験を生かし、家庭でも料理のお手伝いをするきっかけとなればと考えています。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|----------------------|------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 | 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

生産者が教える地元農産物を使った料理教室

取組主体: 知多市

連携団体: 農村生活アドバイザー協会知多地域

実施時期: 平成 25 年 2 月 8 日 (金)

実施場所: 知多市

対象及び参加人数: 市内在住者 10 名

[取組の内容] キーワード : 農村生活アドバイザー、調理実習、地産地消、伝統料理

知多市では毎年、市内の農村生活アドバイザーの協力で、地元農産物を利用した料理教室を開催しています。

今年は伝統的な「おはぎ」を家庭でも手軽に作ってもらおうと、炊飯器を利用した方法を紹介しました。また、炊飯時間を利用して、知多市の特産物であるフキを使った料理も実習しました。

実習の後は、アドバイザーが育てた大豆で作ったみそと野菜を使った豚汁や、自家製の漬物も振舞われ、地元農産物の豊かさに触れながら、意見交換を行いました。



[活動の成果、今後の課題]

調理実習中は下処理や保存方法、意外な調理法など、生産農家ならではの知識も伝えられました。参加者からは今まで一度に食べるには量が多く無駄にすることもあり、あまり購入しなかったが、料理に取り入れやすくなったとの感想がありました。

意見交換も活発に行われ、生産者側と消費者側の良い交流の機会になりました。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|--|------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 |  食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

地元農畜産物を利用した加工品講座

取組主体： 南知多町

連携団体： 南知多農村生活アドバイザー

平成 24 年 6 月 6 日（水）

実施時期： 平成 24 年 12 月 5 日（水）

実施場所： 南知多町

対象及び参加人数： 町内の方 23 名

【取組の内容】 キーワード：地産地消、食品加工体験、農村生活アドバイザー

農村生活アドバイザーでは、地産地消の普及推進を図るため、地元でとれた安全・安心な農畜産物を利用して、食品加工を体験していただいています。

第 1 回の加工品講座では、カップ寿司、ひじきたっぷり卵の花、あみがさまんじゅう、紅茶のゼリーを、第 2 回の加工品講座では、おせち料理、みかんの寿司めしを作りました。



【活動の成果、今後の課題】

参加された方からは、地元の食材を使った様々な料理の作り方などを体験できると好評でした。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|--|------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 |  食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

イチジク料理講習会

取組主体: 碧南市地産地消推進協議会

連携団体: ひまわりクラブ

実施時期: 平成 24 年 10 月 10 日 (水)

実施場所: J A あいち中央碧南中支店

対象及び参加人数: 一般 15 人

[取組の内容] キーワード： 地元農産物、イチジク、農家、交流、講習会

地元の農産物を P R するため、調理方法の情報提供や実習を行い、地産地消を推進しています。

今回は、地元のイチジク農家さんの指導で、家庭で簡単にできるイチジクを使ったおやつ(イチジクのワイン煮、マドレーヌ)を作りました。農家さんには、完熟のイチジクも提供していただき、甘くておいしい生のイチジクも食べました。このほかにも、イチジクをデザインした紙バックも作りました。

参加者のみなさんは、イチジクのおいしい時期や購入方法など、農家さんに熱心に質問し、生産者と消費者の交流も図れました。

参加者は女性ばかりということもあって、和気あいあいとした講習会となりました。



[活動の成果、今後の課題]

食材がイチジクであることに関心をもった参加者が多かったので、口コミによる P R 効果が期待されます。また、地元テレビの取材もあり、イチジクが碧南市の特産であることの P R になったと思います。

参加者からは、「今度はイチジクジャムを作りたい。」「私でも家で簡単にできそうでよかった。」という声が聞かれました。

多くの人に碧南市のおいしいイチジクを食べてもらいたいです。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|--|------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 |  食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

あさりを使ったアイデア料理コンテストを開催

取組主体: 西尾市

連携団体: 市内中学校、高等学校

実施時期: 平成 25 年 3 月 2 日 (土)

実施場所: 西尾市吉良町公民館

対象及び参加人数: 市内の中高生 (応募数 547) のうち本審査会 7 名

[取組の内容] キーワード : 中高生、地産地消、アサリ、トマト、料理コンテスト

西尾市の特産物である「あさり」を使った「アイデア料理コンテスト」が開催されました。これは、農畜水産物に恵まれた西尾市の地元食材を使用した料理コンテストを開催することによって、地元産物の消費拡大を図るとともに、地産地消や食育を推進する目的で行われたものです。

3月2日に吉良町公民館でコンテストの本審査会が開催され、市内の中高生からの応募 547 点から書類審査で選ばれた 7 名が調理を競い合いました。

最優秀賞には、素材としてのあさりを見事に活かした「あさりはんペン」、優秀賞には、地元産のトマトとコラボレーションした「Tomato の宝石箱や〜！」が選ばれました。



[活動の成果、今後の課題]

市内の特産物を使った料理を考えることで、地元の食材や地産地消について親しむ良い機会となりました。入賞した作品は、企業等と連携による新商品開発を模索するなど、地域活性化へつなげていけるよう検討していきます。今後もテーマとなる食材を変えながらコンテストを実施していく予定です。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|--|------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 |  食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

食育推進紙芝居の読み聞かせ

取組主体: 新城市食育推進実行委員会 **連携団体:** 食育推進実行委員会、農協、コープあいち

実施時期: 平成 24 年 11 月 10 日 (土) **実施場所:** 新城市桜淵公園

対象及び参加人数: 対象制限なし、読み聞かせ来場者 約 200 人

[取組の内容] キーワード：食育推進紙芝居、食育推進キャラクター、地産地消、連携

桜淵公園と青年の家で、愛知東農業協同組合とコープあいちが主催の「山と水と緑の協同組合まつり」が開催され、そのなかで、食育推進紙芝居の読み聞かせを実施しました。

この紙芝居は、食育推進キャラクターが登場し、市内の農畜産物を知っていただくことや残さずに食べること、食事のマナーなどをわかりやすく伝えるもので、子供向けに作成したものです。

また、読み聞かせを行いながら食育推進キャラクターのぬりえをぬってもらい、地産地消と食育を伝えました。ぬりえは掲示させてもらうこととし、代わりにキャラクターシールを配布することで、家に帰ってからも家族で話をしてもらえる工夫をしました。



[活動の成果、今後の課題]

掲示したぬりえは 200 枚を超え、参加した子供たちを通して、多くの親にも食育、地産地消を伝えることができるいい機会となりました。紙芝居を活用し、休憩がてら聞いていただけの人もいましたので、子どもから大人までの幅広い年齢層での啓発につながりました。

また、農協とコープあいちとの連携を図ることができましたので、今後、つながりをもちながら、連携した食育推進になることが期待できます。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|--|------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 |  食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |

自給飼料活用畜産物の普及拡大に向けて

取組主体: 愛知県

連携団体: (社)愛知県園芸振興基金協会

平成 24 年 9 月 5 日 (水) ~

実施時期: 12 月 28 日 (金)

実施場所: 名古屋市 他

対象及び参加人数: 一般消費者

[取組の内容] キーワード : 自給飼料活用畜産物、エコ畜産物、PR

食糧自給率や飼料自給率を向上させるためには、自給飼料の利用を推進する必要がありますが、愛知県では、この課題を解決するため、飼料用稲の作付けを推し進めています。また、飼料用稲を作付ける水田へは家畜の排せつ物を還元し、地域の資源循環にもつなげています。

しかしながら、このような取組により生産された畜産物は価格が割高になってしまうため、消費者の理解醸成が不可欠です。

このため、「自給飼料活用畜産物普及拡大事業」により、県産の飼料用稲を利用した畜産物を『エコ畜産物』として位置付け、消費者に対してPRし、その普及を図りました。

「畜産フェスタ」、「地産地消フェア in 太田川」、「農業総合試験場公開デー」、「あいちの農林水産フェア」等の県内の様々なイベントで、エコ畜産物の試食やたい肥の無料配布を実施しました。

また、エコ畜産物の取組等をまとめたパンフレットの配布やビデオの上映も行いました。

この他、Webには特設サイトを設置し、継続的に情報発信を行っています。

URL:<http://aichi-ecochiku.jp>



[活動の成果、今後の課題]

作成したPRパンフレット15,000部を一般消費者及び県内関係各所へ広く配布しました。各イベントで実施した自給飼料活用畜産物に対する一般消費者の意識調査では、取組に対する励まし、賛同の声を多くいただきました。また、本取組への理解度が高い層ほど価格が増しても購入する割合が高く、家畜糞尿のたい肥利用に賛成意見が多いことが分かりました。

今後もPRパンフレット、PRビデオを活用し、エコ畜産物の積極的なPRと消費拡大を目指していきます。

| 【ライフステージ】 | | 【取組の場面】 | | 【プランの取組体系】 | |
|-----------|--------|---------|----|--|---------------------------|
| 乳幼児期 | 少年・青年期 | 保幼 | 学校 |  食を通じて環境に優しい暮らしを築くために | 3 農林水産業や食品産業における環境への配慮の徹底 |
| 壮年・中年期 | 高齢期 | 職場 | 地域 | | |